



看護医療学部 教授

鈴木美穂

ナース・プラクティショナー（NP）の医療ニーズへの貢献

米国では1965年当時、医療過疎地域へ医療を届けるニーズがあり、公式の

日本は国民皆保険で、プライマリ・ケアを提供する、いわゆる「かかりつけ医」を必ず受診する必要はなく、受診者が医療機関を自由に選び、国内のどこの病院でも同じ料金体系で適切な処置を受けられる「フリーアクセス」なので、あまり「かかりつけ医制度」になじみがありません。米国では、いわゆる「かかりつけ医」を「プライマリ・ケア・プロバイダー（PCP）」と呼び、医師だけでなく、NPもフィジシャン・アシスタント（PA）もPCPになり得ます。

医療技術の進歩と人口の高齢化による

疾病構造の変化で、医療ニーズは複雑で幅広くなっています。旧態依然とした医療提供体制では薄くなってしまうところが出てきます（イメージ図）。ピンク色の部分としてNPの貢献は期待できないでしょうか。かかりつけ医機能を「身近な地域における日常的な診療、疾病の予防のための措置その他の医療の提供を行う機能」と定義し、都道府県知事に報告する「かかりつけ医機能報告制度」が2025年4月に開始されます。これは医療の複雑化の幅の増大への対応ですが、担い手のマンパワーの充

実など必要です。

昔
今

医療の複雑化の幅

医療の高度化

…看護師が対応する範囲

…NPが対応する範囲

